

# ミステリ読書案内

2024. 5. 14 発行元

第574号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

## G・K・チェスタトン「ベスト表」(再掲)

ミステリの歴史の中でひととき異彩を放っているのがギルバート・キース・チェスタトン。二十世紀の初頭に独自の論法を積み重ねる形の作品を残した。もちろん代表作は『ブラウン神父シリーズ』。

### 「ブラウン神父シリーズ」の作者

普通に今の若い人達に勧めるのならば「『ブラウン神父シリーズ』をお読みください」なのだが、今回はわざわざ『木曜の男』と『奇商クラブ』の二冊を取り上げて紹介することにした。

チェスタトンの生涯を見てみると政治に関わるジャーナリストとして激しい論争に加わってきているので、激動の二十世紀の国家の行く末など持論を展開することが仕

事そのものだった。残されている著作物も膨大な量存在するようだ。そんな中で、ミステリ小説についても考えるところがあったのだと思う。当時のホームズ物やルパン物が話題になる世の中で、自分なりの論理の組み立てで物語を作ってみた結果が『ブラウン神父シリーズ』などになった。

『木曜の男』は『トレント最後の事件』の作者E・C・ベントリーに献じられている。小説家仲間との交流も多かったようだ。「逆説」と「諧

### 《G・K・チェスタトンのベスト表》

1. ブラウン神父の醜聞
2. ブラウン神父の童心
3. ブラウン神父の知恵
4. 奇商クラブ
5. 木曜の男 《長編》
6. ブラウン神父の秘密
7. ポンド氏の逆説
8. ブラウン神父の不信
9. 詩人と狂人たち

ミステリ本に限定して。いずれの本も創元推理文庫に収められている。

「諧(かいぎやく)」がチェスタトンの論法の代名詞になっている。通常の思考から一步外れた考え方を楽しめる人なら、チェスタトン作品にも興味を持ってもらえるかも。創元推理文庫では版を重ねているようなので、探せば手に入ると思う。

### 「木曜の男」

1908年の作。私の手元にあるのは1973年の創元推理文庫第8版。吉田健一の訳である。創元推理文庫の巻末目録を見ると『ブラウン神父シリーズ』の次に本書『木曜の男』が載っている。「本格推理小説」の分類の中に。でも本書が「本格もの」だとは思わない。ミステリの歴史の中のひとつの試みくらいに思うのがよいのかも知れない。チェスタトン作品の中で唯一の長編ミステリ作品。

登場してくるのは無政府主義者の秘密組織。ここに出てくるのはヨーロッパ無政府主義中央会議というもので、七人のメンバーで構成され、それぞれが曜日の名前と呼ばれている。「日曜」がこの会の議長で、組織を支配している。物語の中心になって話を進めるのは詩人で無政府主義者のルシアン・グレゴリーと、法則や秩序に美を求める詩人のガブリエル・サイムの二人。街頭で出会った二人は詩についての論争から無政府主義の話へ進む。グレゴリーは秘密組織の中で欠員になっていた「木曜」になることを話し、秘密にサイムを会合に参加させることに…。実は、サイムはロンドン警視庁の秘密警察の刑事で、無政府主義者団体の調査に取り掛かっていたところ。会議の中での演説が開始され、「木曜」に選定されるための演説をグレゴリーが行うのだが…。そしてサイムは…。最後に明かされる驚愕の事実…。それは何と…。

### 「奇商クラブ」

1905年の作。チェスタトンのミステリ作品としては一番古い。私の手元にあるのは1977年の創元推理文庫初版。福田恒存(シェイクスピアの訳などで有名)の訳。現在の創元推理文庫は新訳版になっているようで、訳者は入れ替わっている。『奇商クラブ』は六編の短編からなる短編集。併せて本書には中編の『背信の塔』と『驕りの樹』も収録されている。

本書に登場する「奇商クラブ」というのは、今の世の中にはない完全に新しい生業・職業・仕事を考え出すことができる人物が会員になれるというもの。既存の職業の応用編だったり変形版だったりでは駄目で、なおかつ生活を維持するだけの収入が得られるものでなくてはならない、厳しい基準。このクラブの中心になっているのが元裁判官のバジル・グランド。彼はイギリスでも正確さと力強さの点で一番の裁判官と言われながら、ある時裁判長席で発狂状態になってしまい、引退に追い込まれたという逸話の持ち主。さて、奇商クラブの会員が持ち込んでくる問題をバジルがどのように分析していくのか…。第一話は『ブラウン少佐の大冒険』。ブラウン少佐が語ったのは「黄色の堇、地下の石炭庫、P・G・ノースオーヴァー」と意味不明の言葉。少佐が体験した奇妙な出来事を詳しく聞いていくと…。それについての解答が…。意表をつく結末。以下、第二話『痛ましき名声の失墜』へと続いていく。『ブラウン神父シリーズ』への繋がりが感じ取れる。